S
SOCIAL
社 会

4つの方針
次世代育成
環境配慮
住文化向上
防災・被災地支援

ESGの重要テーマ

社会貢献活動

基本的な考え方

企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、さまざまな社会貢献活動を進めています。「次世代育成」「環境配慮」「住文化向上」「防災・被災地支援」という4つの方針を柱に、「教育機関と連携した教育支援活動(キッズ・ファースト)」「環境事業を通じた社会貢献(エコ・ファースト)」「地方創生」「NPO・NGOとの協働、メセナ活動」など、地域に根差した活動に取り組んでいます。

4つの方針と活動内容

次世代育成	環境配慮	住文化向上	防災・被災地支援
● 教育機関と連携した教育支援活動(キッズ・ファースト) ● 環境事業を通じた社会貢献(エコ・ファースト) ● 地方創生		● NPO・NGOとの協働 ● 市民活動の支援 ● 従業員のボランティア活動 ● メセナ活動 ● 緊急支援	

企業理念の根本哲学「人間愛」

活動方針① 旅の提案とホテル事業による地方創生で豊かさを創出

「Trip Base 道の駅プロジェクト」の進行 ▶ 6府県15カ所で展開。その後順次全国へ

活動報告

全く新しい体験型の旅スタイルを提案

当社とマリオット・インターナショナルは、国内の各自治体と連携し、「道の駅」をハブにした、「地域の魅力を渡り歩く旅」を提案する地方創生事業「Trip Base(トリップベース)道の駅プロジェクト」を展開しています。ファーストステージとして、ロードサイド型ホテルを2020年秋以降に6府県15カ所約1000室の規模でオープン。その後セカンドステージフェーズ1(2021年以降)で6道県、セカンドステージフェーズ2(2022年以降)では13県で順次開業予定です。プロジェクトのコンセプトは「未知なるニッポンをクエストしよう」。文化・風習・暮らし・食など、地域に根差した地域資源を地元の皆様とともに提供します。全国各地で人気の道の駅に隣接したホテルを自動車やバイク、自転車などで渡り歩きながら、地域と人とのつながりを感じることを通じて旅行者の満足度を高めることを目指します。

宿泊特化型のロードサイドホテルを展開

ホテル事業は、ユーザビリティの高いマリオット・インターナショナルの日本初上陸となるホテルブランド「フェアフィールド・バイ・マリオット(Fairfield by Marriott)」によるロードサイド型ホテルとして展開し、建築を当社が請け負います。シンプルにゆったりとくつろぐことのできる宿泊特化型のホテルで、当社の「βシステム構法」を採用し、工業化住宅の強みを生かしています。

事業発表以来、各方面から反響

このような地方創生の取り組みについては、各種関係団体から反響があります。2019年11月、大阪府立豊中高校能勢分校で企業外部講師として高校1・2年生への講演を行いました。

今後、国内外における旅行の多様化が見込まれます。新しい旅のスタイルを通じて地方創生・地域活性化の一助となる取り組みを推進します。

ロードサイド型ホテル

活動方針② サステナブル社会の構築に寄与する社会活動の支援

従業員と会社の共同寄付 ▶ 「積水ハウスマッチングプログラム」加入率40%を目標に

活動報告

共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

従業員と会社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(従業員加入率25%)を2006年度に開始し、社会課題の解決を担うNPOなどの団体を支援しています。

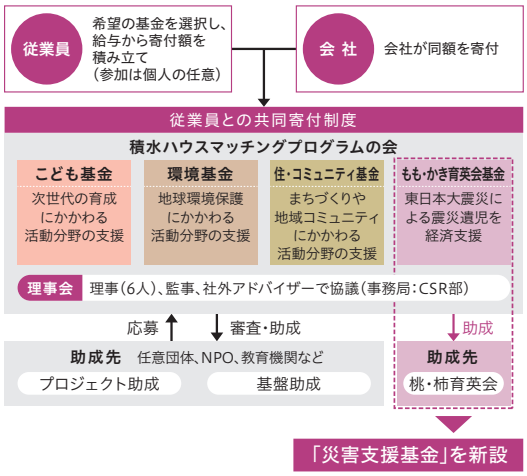
この制度は、従業員が給与から希望する金額(1口100円)を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども」「環境」「住・コミュニティ」「もも・かき育英会」の4基金を設置、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。

2020年度は「こども基金」「環境基金」「住・コミュニティ基金」で計37団体に3833万円を助成。「もも・かき育英会基金」では、2011年からの10年間で1億2217万円を東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家・安藤忠雄氏)へ寄付しました。4基金でこれまで延べ354団体に4億円を超える助成を実施しています。

「こども基金」で助成
NPO法人 Globe Jungle

「環境基金」で助成
NPO法人 緑のダム北相模

「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



「災害支援基金」を新設

2020年1月で桃・柿育英会への10年間にわたる寄付期間が満了したことに伴い、「もも・かき育英会基金」を終了。2020年度から新たに「災害支援基金」を設置しました。

本基金は災害発生時に現地でいち早く活動するNPO団体等を支援するもので、復旧活動に速やかに役立てられるという利点があります。住宅メーカーとして災害支援という切り口で基金を開始することにより、住宅復旧、被災地復興支援など、発災直後の住宅をめぐる社会課題を解決し、災害支援に向けた取り組みをより一層推進していきます。

活動方針③ 教育機関と連携した「キッズ・ファースト」としての取り組み

小学生プログラミング教育 ▶ 未来の住まいを学び、創造する機会の提供

活動報告

3省が推進する小学校プログラミング教育を支援

2020年度から小学校におけるプログラミング教育が必修化となることを受け、文部科学省・総務省・経済産業省は、先進技術で社会課題を解決していくことができる人材の育成を目指し、2019年9月を「未来の学び プログラミング教育推進月間」と設定しました。当社は住宅・建設業界唯一の参加協力企業として、各地にある「住まいの夢工場」等で6校計300人を超える小学生の訪問を受け入れ、住まいの先進技術についてのスペシャル授業「みんなの家!未来の家!」を実施。子どもたちは、構造や災害への備え、暮らしやすい家の工夫などを体感しながら学んだことをヒントに、「環境に優しい家」「笑顔が増える家」などのテーマを決め、パソコンの仮想空間上や段ボールを使い、自分たちで考えた「未来の家」を制作しました。

当社にとって、プログラミング教育に協力することは、教育を通した社会貢献として、SDGsの達成にも関連する取り組みです。今後も「キッズ・ファースト」を推進する企業として、小学校のプログラミング教育を支援していきます。

「積水ハウス エコ・ファースト パーク」(茨城県古河市)での社員による授業

活動方針④ 自治体と強固に連携して各地域でSDGsを実践

大阪府との包括連携協定締結 ▶ SDGs達成に向け、10都道府県との協働を目指す

活動報告

大阪府と包括連携協定を締結

2019年6月、大阪府と子ども・福祉や健康・働き方改革、環境、雇用・中小企業振興、防災・防犯、政府のPRなど7分野21項目にわたる連携と協働に関する包括連携協定を締結しました。本協定に基づき、子どもたちの多様な体験機会の創出や、大阪製ブランド認証製品コーナーの設置など、多岐にわたる分野での連携を進めています。

本協定は、以前から取り組んでいる大阪府と当社の連携・協働において活動をより一層進化させ、SDGsの達成を図ることを目的としたものです。

個性豊かで魅力ある地域社会の実現のため、大阪府だけでなく全国の自治体との連携・協働を目指していきます。

締結式
（中央：吉村大阪府知事と当社会長）

主な取り組み例

梅田スカイビル「新・里山」「天空美術館」、グランフロント大阪「住ムフムラボ」「ダイアログ・イン・ザ・ダーク『対話のある家』」などの当社施設を活用した子どもたちへの体験機会の創出・支援。
女性活躍や働き方改革、健康経営をテーマとしたセミナーへの登壇。
ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）宿泊体験を通して、大阪府が進めるZEH普及啓発事業に協力。
梅田スカイビルにて、大阪製ブランド製品の販売・PR。
当社媒体、梅田スカイビルを活用した府政の周知協力。
府立高校への支援として、地方創生事業「道の駅プロジェクト」の授業を実施。

大阪府の子どもたちを
「住ムフムラボ」へ招待

社員による
「道の駅プロジェクト」の授業

活動方針⑤ 「エコ・ファースト企業」としての取り組み

三つの約束の実践のために ▶ 次世代を担う子どもたちへの環境教育を展開

活動報告

環境教育・三つのプログラムで出張授業

「エコ・ファースト企業」としての三つの約束である「CO_2排出量削減」「生態系ネットワークの復活」「資源循環の取り組み」をテーマに、クイズや体験を取り入れた三つの出張授業プログラムを展開。暮らしの中でできる省エネや生態系保全、資源の有効活用の大切さを学ぶ体験型教育プログラムを小学校での出張授業やイベントで実施しています。

家の断熱性について学ぶ 出張授業

環境教育施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」

「積水ハウス エコ・ファースト パーク」では「エコ・ファースト企業」としての三つの約束への取り組みを体感できるほか、地球環境を守るために住まいが果たす役割が多くあることを楽しく学ぶことができます。

人・緑・生き物が共生する「新・里山」「希望の壁」

梅田スカイビル（大阪府）の北側に2006年にオープンした「新・里山」（約8000m²）では当社の生態系に配慮した取り組みである「5本の樹」計画の考え方に基づき、日本の原風景「里山」を再現しています。2013年には、その東側に建築家・安藤忠雄氏の発案で巨大な緑化モニュメント「希望の壁」が完成。年月の経過とともに多様な植物、生き物を育み、生態系を感じることのできる場として市民やオフィスワーカーに親しまれています。

当社では、地元の小学校や幼稚園と連携し、田植えなどの農作業体験を「新・里山」で毎年継続して行っており、都会の子どもたちにとって貴重な自然体験の場としても活用しています。

小学生による「新・里山」での
田植え体験

「新・里山」「希望の壁」を
西側から望む

活動方針⑥ 新しい住文化・芸術文化の発信拠点として

「感じる力」や対話する場の提供 ▶ 体験者の広がり・豊かな暮らしを創造する

活動報告

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク『対話のある家』」

情報受発信拠点「住ムフムラボ」(大阪市北区「グランフロント大阪」内)では、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下DID)」との共創プログラム「対話のある家」を定期開催しています。2013年の開設以来、世界で唯一「家」「家族」をテーマに展開する「対話のある家」として、季節に沿って家族や暮らしに焦点を合わせた独自プログラムを提供。純度100%の暗闇の中、視覚障がい者のアテンドのもと、さまざまなシーンを体験して、対話の大切さや視覚以外の感覚の豊かさを実感できる人気プログラムで、これまで2万1000人以上が体験しました。

当社では「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり取り組んできた「スマート ユニバーサルデザイン」などの研究活動を通じ、今後も「感じる力」「関係性の回復」「多様性への理解」を目的に、DIDを通じて対話する場を提供し、社会にとって価値ある体験を広げていきます。

「絹谷幸二 天空美術館」

芸術文化振興による社会創造を目指し、日本におけるフレスコ画(壁画の古典技法)の第一人者である洋画家・絹谷幸二氏の「絹谷幸二 天空美術館」を本社のある梅田スカイビル(タワーウエスト27階)に開設。2016年の開館以降、国内外から多くの来場があり、2019年度の年間来館者数は約10万人となりました。同館では、世界初の試みである絵画の世界に飛び込む3D映像体験が楽しめるほか、絹谷氏の色彩豊かな数々の絵画、彫刻立体作品を展示しています。

2019年は3周年記念展などの特別展を開催。また人類最古の絵画技法につながるフレスコを、間近で見て、実際に創る「フレスコ体験」がキッズデザイン賞を受賞しました。

絹谷幸二氏が世界のミュージアム関係者に展示解説

フレスコ体験

活動方針⑦ 自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

被害情報確認や被災者支援 ▶ 暮らしを守る企業の社会的責任を果たす

活動報告

「令和元年台風19号」などでの災害復旧活動

2019年は台風15号、19号など強い台風が襲来しました。被災地に対し、本社と各本部の対策本部が連携し、全国的な支援を展開。前年の西日本豪雨での経験を生かし、復興支援活動を行いました。応援社員のホテルやレンタカー手配を本社総務部で一括管理し、新たに開発した「災害訪問」アプリを活用するなど、応援社員の負担を軽減することができました。

台風15号で甚大な被害を受けた千葉県では、初日から1800件もの電話が殺到しましたが、CS推進部が受電する体制をとり、現場社員はオーナー様への確認連絡や訪問に専念。3日程度で全オーナー様の被害状況確認と、被災した約300棟の初期対応ができました。

台風19号による福島県いわき市での大規模な浸水被害では、初動で本社の施工部が駆け付けて必要物品を手配。ただちに東北工場から支援物資が送られ、手分けしてオーナー様への訪問や電話確認を行いました。

宮城・熊本・広島で新入社員による復興支援活動

東日本大震災の翌年から毎年、新入社員が被災地復興支援活動に取り組んでいます。被災地のニーズに沿った支援を行うとともに「企業理念」や「行動規範」に基づく考え方・行動を身につけ、住宅事業の意義について理解を深めることが目的です。2019年は460人が参加。8年間で累計3481人が本活動に参加しています。

仮設住宅の風除壁設置作業

倒壊した建物跡地にて黙とう